

| 教育目標  |  | 幅広い知識と教養、正しい判断力と自律的な生活態度を身に付けさせるとともに、豊かな人間性や社会連帯の精神、国際社会に生きる資質を養うなど、民主的で平和な社会の創造と発展に貢献できる人材の育成を目指す。  |  |  |   |         |                | 総合評価                 |
|---|--|--|--|--|---|---------|----------------|----------------------|
| 運営方針  |  | 「誠実・剛毅・雄大」の校訓の精神と文武両道を奨励する校風のもと、個々の生徒の自己実現に向けて、確かな学力の定着を図る指導、自主的な学習態度や自律的な生活態度を高める指導の徹底を図る。  |  |  |   |         |                |                      |
| ○昨年度の成果と課題  |  | 本年度重点目標  |  | 具体的目標  |   |         |                |                      |
| 家庭学習の重要性を訴えているが、生徒の認識としては不十分。そのため、課題を積極的に与えているが、課題についての教科内、教科間の連携がスムーズにできず、時によっては生徒の負担になりすぎることもあった。量的、質的な改善のため、教員間での日常的な連携が大切。また、早期から進路実現に対して意識付けをし、具体的な目標をもたせたい。 |  | 確かな学力の養成   |  | 第1学年から予習、復習を習慣化させ、学力の定着を図るとともに、指導者としての授業力を校内研究授業等を通して向上させる。                        |   |         |                |                      |
|   |  | 早期からの進路指導の充実   |  | 進路に関する情報提供等を充実させ、自己を客観的に見つめることにより、具体的な将来の進路を考えさせる。                                 |   |         |                |                      |
|   |  | 基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成  |  | 不注意による遅刻の削減。校内外の生活全般にわたってマナーを身に付けさせる。自らの健康や安全を確保する能力と自立心を養う。                       |   |         |                |                      |
|   |  | 学習と部活動のバランスの取れた両立  |  | 学習においては集中力を養い、目標を貫徹し継続して取り組む強い意志力を育てる。部活動においては、教科担当と部活動顧問が常に連携し、効率的な活動となるための工夫を図る。 |   |         |                |                      |
|   |  | 豊かな人間性の育成  |  | 学校行事、生徒会活動、HR活動及び読書活動等の精選と充実を図る。   |   |         |                |                      |
| 評価項目  | 具体的目標(評価小目標)   | 具体的方策  | 評価指標   | 中間期(9月)  |   | 年度末(3月) |                | 学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策 |
|   |  |  |  | 自己評価   | 進捗状況  | 自己評価    | 成果と課題(評価結果の分析) |                      |
| 育友会   | 育友会活動の活性化を図る。  | 文書やホームページ、連絡メールの活用、育友会総会時の講演等の充実により総会参加者を増やし、満足度をたかめる。   | 参加者の満足度・よかった70%以上A、60%以上B、50%以上C、50%未満ならDとする。  | A  | 日期的にもいい時期であり、講師のお話もよく、満足度は高かった。   |         |                |                      |
|   |  | 内容や行き先を精選し、育友会主催の研修会(講演会・社会見学)への参加者を増やし、満足度をたかめる。  | 参加者の満足度・よかった70%以上A、60%以上B、50%以上C、50%未満ならDとする。  | A  | 参加者も多く、内容も充実していたので、参加者の満足度は高かった。  |         |                |                      |
| 授業の充実   | 平素の授業の充実と授業研究週間・公開授業の活性化を図る。   | 授業研究の活性化を図るため、授業研究週間等を活用して授業方法を研究する。   | 昨年度と比較して授業研究の活性化が図れたと答えた職員が9割を超えればA、9割～6割ならB、6割～4割ならC、4割未満ならDとする。                                      | —  | 教員アンケート実施後に評価を行う予定である。  |         |                |                      |
| 進路指導  | キャリア教育を推進する。   | キャリア教育に関する講演等において働いている人の話を直接聞く。「郡高キャリア通信」の中で、進路選択、大学情報や入試情報、大学での研究内容や卒業後の進路等、将来の自己実現に繋がる情報を発信し、キャリア教育の充実に役立てる。   | キャリア教育に関する講演等の感想において、とても良かった、良かったの割合が7割以上ならA、5割以上ならB、3割以上ならC、3割未満ならDとする。実施しないときは「郡高キャリア通信」の発信によって評価する。 | —  | 「Professionalsに学ぶ」実施後に評価を行う予定である。                                       |         |                |                      |
|   | 進路意識の向上を図る。  | 進路HR、進路だより、進路集会等により自己の進路目標の実現に向け、早期に学習を開始させる。  | 進路目標実現に向けた学習の開始時期が、過半数の生徒が、2年2学期までA、3学期までB、3年1学期までC、それ以降はDとする。   | —  | 生徒実態調査実施後に評価を行う予定である。   |         |                |                      |
|   | 学力の向上を図る。  | 模試成績を分析し、進路対策委員会と教科が連携して学力向上の具体的な方策を検討し、その実行により進路目標の実現を図る。   | 学年の初回と最終回の模試全国偏差値の差が1以上A、-2以上B、-5以上C、-5未満ならDとする。   | —  | 年度末に評価を行う予定である。   |         |                |                      |
| 生徒指導  | 生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上、道徳観の育成をはかり、充実した学校生活を送らせる。   | 学校生活のあらゆる局面で挨拶の励行を促す。  | 挨拶に関するアンケートを先生方または生活委員を対象に行い、教員や来校者に対し挨拶をできている生徒が85%以上A、80%以上B、75%以上C、75%未満ならDとする。                     | —  | アンケート実施後に評価を行う予定である。  |         |                |                      |
|   |  | 毎日の登校指導や授業、学校行事等を通して、正しい制服の着用を促す。  | 服装に関するアンケートを実施し、制服を正しく着用しているとの回答が90%以上A、85%以上B、75%以上C、75%未満ならDとする。                                     | —  | 生徒実態調査実施後に評価を行う予定である。   |         |                |                      |
|   |  | 月2回以上不注意遅刻をした生徒には集会に参加させ、学級担任副担任と連携しながら、自ら時間を守るという生活習慣を徹底させる。  | 集会に参加する生徒の人数が学年平均で2人未満A、3人以上5人未満B、5人以上7人未満C、8人以上はDとする。   | A  | 年間通しての評価となるが、7月までの途中経過として、のべ人数で第1学年0名、第2学年4名、第3学年2名、1か月あたり学年平均は0.5名である。 |         |                |                      |
|   |  | 各学期最初と最後の2度、毎月始めに1度、服装頭点検を実施し、学年主任・担任副担任と連携を取りながら継続的に指導する。   | 各学期の点検時に指導が必要な生徒が全体の0.5%未満A、1%未満B、1.5%未満C、それ以上はDとする。   | A  | 年間通しての評価となるが、7月までの途中経過として、のべ人数で第1学年0名、第2学年2名、第3学年2名、全校生徒に対する比率は0.3%である。 |         |                |                      |
|   |  | 生徒の生活意欲を喚起するため、「今月の言葉」を掲示板及び教室に掲示する。内容をさらに精選し、自らのよりよい生き方・在り方を考えさせる機会とする。   | 内容に興味・関心を持てるものがあつたと答えた生徒が全体の60%以上A、50%以上B、40%以上C、40%未満ならDとする。  | —  | 生徒実態調査実施後に評価を行う予定である。   |         |                |                      |
| 特別活動  | 個々の生徒がそれぞれのシーンにおいて、その立場および責任を理解し、自主的・自発的な活動のもとに創造的な能力が発揮される生徒会活動になるよう支援する。また、郡高生としての帰属意識・愛校心を高めるとともに、地域との連携、調和を図る。 | 各学校行事においてそれぞれの生徒が各々の立場で輝けるよう、生徒役員を中心に十分な計画・準備を行い、その都度チェック・反省を繰り返しながらより良きものとなるよう指導する。特に文化祭は、文字通り「生徒の文化」の結晶となるよう文化祭実行委員会を通し、全校生徒がアイデアを出し合いながらオリジナリティー溢れる行事となるよう支援する。 | 生徒実態調査により、文化祭において、まわりと協力しながら想像力溢れる文化祭になるよう努力できたとする生徒が80%以上A、60%以上B、45%以上C、45%未満ならDとする。                 | —  | 生徒実態調査実施後に評価を行う予定である。   |         |                |                      |
|   |  | 生徒会報を年間6回以上発行を目標とするが、発行回数よりもその内容を充実したものにするため指導していく。会報を通して生徒会執行部および各課委員の方針、活動内容を全校生徒に伝え、より開かれた生徒会活動を目指す。  | 生徒実態調査により、生徒会報に興味を示し目を通しているという生徒の割合が70%以上A、50%以上B、40%以上C、40%未満ならDとする。                                  | B  | 年間通しての評価となるが、1学期については左記のように評価した。  |         |                |                      |
| 部活動   | 各部活動において、心身ともに健全な生徒の育成を目指しながら、文武両道の伝統的な校風の維持発展に努める。また、活動場所や部室等の環境整備により、体力および競技力の向上が可能となるよう支援する。                    | 「文武両道」とは勉強と部活動が両輪となるべきものである。部活動偏重になりがちな1・2年生に対し、勉強と両立しながら競技力を向上させることにより、将来実りある進路実現が達成されるよう指導していく。また、強い精神力と忍耐力を培いながら、あいさつやマナー等の重要性を指導する。                            | 生徒実態調査により、部活動を通して精神力、体力、学力が向上したとする生徒が70%以上A、50%以上B、35%以上C、35%未満ならDとする。                                 | —  | 年間を通しての評価なので、年度末に評価を行う予定である。  |         |                |                      |
| 人権教育  | 豊かな人間性の育成のため、人権HR活動を充実させる。   | 正しい判断力と自律的な生活態度を身に付けるため、ワークショップ等を取り入れた生徒参加型のHR実践を行う。   | 前年度と比較して、全学年でさらに指導案の工夫がされていればA、2つの学年ができていればB、1つの学年のみC、どの学年もできていない場合はDとする。                              | B  | 2年生は1学期人権HRが実施されていない。   |         |                |                      |
|   | 推進体制の充実を図り、教職員の実践力を高める。  | 教職員の実践に即した職員研修を計画し、実施する。   | 事後アンケートを実施し、HR実践等への参考になったが80%以上A、60%以上B、40%以上C、40%未満ならDとする。  | —  | 職員研修が未実施であるため未評価。   |         |                |                      |
|   |  | 人権教育関係の回覧を充実させ、教職員自らが人権問題について認識を深める。   | 教員アンケートで県推進委員会、県外教等の資料の回覧により、人権問題への認識が深められたが80%以上A、60%以上B、40%以上C、40%未満ならDとする。                          | —  | 教員アンケート実施後に評価を行う予定である。  |         |                |                      |
|   | 生徒・保護者への人権啓発活動を充実させる。  | 人権教育部だよりを作成し、生徒に配付、HPへの掲載を行う。  | 年間に4回以上配付できればA、3回以上B、2回以上C、1回以下はDとする。  | —  | 現在、1回発行している   |         |                |                      |
|   | 人権啓発活動への積極的な参加を呼びかける。  | 生徒及び保護者が講演会、標語等への応募も含め、各活動への参加が5回以上A、4回以上B、3回以上C、2回以下はDとする。  | —  | B  | 現在、生徒の標語・ポスター応募が3回、各活動への参加も確認。  |         |                |                      |

| 評価項目            | 具体的目標<br>(評価小目標)                                    | 具体的方策   | 評価指標   | 中間期(9月)  |   | 年度末(3月)  |  |       |                      |
|-----------------|---|---|--|--|---|--|--|-------|----------------------|
|                 |   |   |  | 自己評価   | 進捗状況  | 自己評価   | 成果と課題(評価結果の分析)                         | 改善方策等 | 学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策 |
| 教育相談            | 生徒が個々の力を十分に発揮するために、柔軟で多様な考え方や感じ方ができるよう支援する。         | 生徒用「相談室だより」を年3回発行する。  | 生徒実態調査において、「『教育相談だより』に興味をもって読んだ」という回答が80%以上でA、60%以上でB、40%以上でC、40%未満ならDとする。   | —  | 生徒実態調査実施後に評価を行う予定である。   |  |  |       |                      |
|                 | 教員の教育相談に関する知識と理解を深める。                               | 生徒理解のための参考となる情報として、教師用「相談室だより」を毎月発行する。                            | 教員アンケート(「相談室だより」を「概ね目をとっている」、「あまり目をとっていない」、「まったく目をとっていない」)を実施し、「概ね目をとっている」という回答が80%以上でA、60%以上でB、40%以上でC、40%未満ならDとする。 | —  | 教員アンケート実施後に評価を行う予定である。  |  |  |       |                      |
| 保健              | 生涯を通じて健康な生活が実践できる力を育成する。                            | 保健通信を活用しながら、怪我・疾病予防など、健康への関心を高める。                                 | 生徒実態調査において、「保健通信を読んで怪我・疾病予防などに生かされた」という回答が60%以上A、40%以上B、20%以上C、20%未満ならDとする。  | —  | 生徒実態調査実施後に評価を行う予定である。   |  |  |       |                      |
| 体育              | たくましい体力、活動の充実を図る。                                   | 体育に関する行事「新体力テスト・体育大会」を実施し、体力の向上および活動の充実を目指す。                      | 生徒実態調査において、体育に関する行事に自己の能力を発揮して活動したが、80%以上A、60%以上B、40%以上C、40%未満ならDとする。  | —  | 日頃の体育活動においては、体づくりを行っているが、生徒実態調査実施後に評価を行う予定である。  |  |  |       |                      |
| 読書や文化体験活動に関する指導 | 生徒の読書量の増加を目指す。                                      | 読書HRや読書会などを実施し、読書の楽しさやすばらしさを知り、読書量を増やすことが、充実した生活に役立つことを認識させる。     | 4月から3冊以上の本を読んだという生徒の割合が50%以上A、30%以上B、10%以上C、10%未満ならDとする。   | —  | 生徒実態調査実施後に評価を行う予定である。継続して指導したい。   |  |  |       |                      |
|                 | 積極的な啓発活動を実施し、読書への関心をもちさせる。                          | 図書館「共慶」の配布、学級文庫の設置、放送アピールや掲示などにより、読書への関心を高める。                     | 生徒実態調査において、啓発活動に興味をもったという生徒が、50%以上A、30%以上B、10%以上C、10%未満ならDとする。   | —  | 生徒実態調査実施後に評価を行う予定である。継続して指導したい。   |  |  |       |                      |
| 学校環境            | 生徒による施設設備の自主的な整備と美化                                 | 普通清掃や大掃除を通して、身のまわりの環境を自ら整える力を身につけさせる。                             | 生徒に自己評価させ、「積極的に清掃活動に取り組んだ」と答えた者の割合が80%以上A、60%以上B、40%以上C、40%未満ならDとする。   | —  | 生徒実態調査実施後に評価を行う予定である。   |  |  |       |                      |
|                 | 美化マナーの向上  | 校舎内での公私の区別を付けさせるため、美化委員によりロッカーの上や靴箱の上に私物を置かない呼びかけをする。定期的に点検も実施する。 | 私物が無い状態のクラス数の割合が80%以上A、60%以上B、40%以上C、40%未満ならDとする。  | A  | 点検を3回行った。ロッカー上に私物が無い状態のクラス数の割合は87.6%。   |  |  |       |                      |
|                 | 美化委員が作成したポスターを掲示し、ゴミの減量・分別・トイレ使用マナーの向上等の習慣を身につけさせる。 | 生徒に自己評価させ、「マナーを守っている」と答えた者の割合が80%以上A、60%以上B、40%以上C、40%未満ならDとする。   | —  | 生徒実態調査実施後に評価を行う予定である。  |   |  |  |       |                      |
|                 | 防災意識の向上   | 年2回避難訓練を実施し、訓練実施前には避難経路および災害時の行動についてのプリントを配布して指導の徹底を図る。           | 生徒に自己評価させ、教室から点呼場所への避難経路や災害時の行動について理解しているかについて「理解している」と答えた者の割合が80%以上A、60%以上B、40%以上C、40%未満ならDとする。                     | —  | 生徒実態調査実施後に評価を行う予定である。   |  |  |       |                      |
| 広報活動            | 学校ホームページ等による情報公開を進める。                               | 本校Webサイトや連絡メールシステムの運用について職員に周知し、スムーズな情報公開に努める。                    | 保護者アンケートで「ホームページや連絡メールで配信される情報は役に立っていますか」との問いに対して「あてはまる」という回答が70%以上A、50%以上B、30%以上C、30%未満ならDとする。                      | B  | 本年度の保護者アンケートによる満足度が53.3%で、昨年度54.5%、一昨年度61.0%で近年減少傾向にある。本年度後半に、スマートフォンにも対応した新しいシステムへ移行される予定のホームページについて、連絡メールとあわせて、利用手続きを職員に周知する。 |  |  |       |                      |
| 学校の充実           | 授業アンケートなどの活用を図る。                                    | 授業アンケートが教員の授業点検にさらに役立つように、趣旨を教員と生徒に周知するとともに設問項目や実施形態を研究し検討を加える。   | 教員アンケートで「授業アンケートが自らの授業の点検に役立ったか」との問いに対して「そう思う」「どちらかというと思う」という回答が70%以上A、50%以上B、30%以上C、30%未満ならDとする。                    | —  | 教員アンケート実施後に評価を行う予定である。  |  |  |       |                      |
| 1学年             | 学習指導  | 授業以外で1日平均2時間以上の学習時間を確保させる。  | 各教科で学習すべき課題や内容について細かく指示し、余裕をもって登校することを奨励するなど、隙間時間を有効に活用させる。  | 授業時間以外の学習時間が2時間以上の生徒の割合が60%以上A、30%以上B、15%以上C、15%未満ならDとする。                          | —   | 2・3学期考査後の「学習時間アンケート」実施後に評価を行う予定である。  |  |       |                      |
|                 | 生活指導  | 不注意による遅刻総数を少なくする。   | 8時20分着席の定着を早期に図るとともに、さらに余裕のある登校を奨励し、安易に遅刻できない環境作りをする。  | 不注意による遅刻総数が50回以下はA、51～70回はB、71～90回はC、91回以上ならDとする。                                  | A   | 1学期の遅刻総数は35回と例年以上に少なく、20分着席の習慣が理解され、実践されている。うち、不注意による遅刻は15回。(50/3=16)  |  |       |                      |
|                 | 進路指導  | 制服を正しく着させる。   | 生徒心得や服装規定を正しく理解させ、服装に対する自己点検を徹底させる。  | 年度末のアンケートにおいて、服装を正しく着ている生徒の割合が、90%以上A、80%以上B、60%以上C、60%未満ならDとする。                   | —   | 制服の着用で注意を受ける生徒は少なかった。リボン着用時の第1ボタンについてもよく守られていたので、2学期以降も学年全体で指導していきたい。  |  |       |                      |
| 2学年             | 学習指導  | 将来の進路の方向性を確定させる。  | HR活動、面談、進路集会などを通じて、様々な情報を提供し意識を高めさせる。  | 進路希望調査において、進路の方向性を決定している割合が90%以上A、70%以上B、50%以上C、50%未満ならDとする。                       | —   | 進路希望調査実施後に評価を行う予定である。2学期は類型科目選択があるので、説明会やHR、面談を通して、自分の進路について十分に考えさせたい。   |  |       |                      |
|                 | 生活指導  | 授業以外で1日平均2時間以上の学習時間を確保させる。  | 学習すべき内容について細かく指導する。また、隙間の時間を有効に活用させる。  | 授業時間以外の学習時間が2時間以上の生徒の割合が70%以上はA、50%以上B、20%以上C、20%未満ならDとする。                         | C   | 1学期の調査では、平日の学習時間2時間以上の生徒の割合は36.9%であった。   |  |       |                      |
|                 | 生活指導  | 不注意による遅刻総数を少なくする。   | 8時20分着席の持つ意味を考えさせ、安易に遅刻をさせない環境作りをする。   | 不注意による遅刻総数が80回以下はA、81～100回はB、101～120回はC、121回以上ならDとする。                              | A   | 1学期の不注意による遅刻総数は24回であった。  |  |       |                      |
| 3学年             | 学習指導  | 制服を正しく着させる。   | 生徒心得や服装規定を正しく理解させ、服装に対する自己点検を徹底させる。  | 年度末のアンケートにおいて、服装を正しく着ている生徒の割合が、90%以上A、80%以上B、60%以上C、60%未満ならDとする。                   | —   | 概ね、正しく制服を着用している。さらに徹底させたい。アンケート実施後、評価を行う。  |  |       |                      |
|                 | 生活指導  | 将来の進路の方向性を確定させる。  | HR活動、面談、進路集会などを通じて、様々な情報を提供し意識を高めさせる。  | 進路希望調査において、進路の方向性を決定している割合が、90%以上A、80%以上B、60%以上C、60%未満ならDとする。                      | —   | 科目選択や進路関係の行事を通して、しっかり自分の進路について考えさせたい。進路希望調査実施後に評価を行う。  |  |       |                      |
|                 | 進路指導  | 学習指導  | 少くとも早い時期から進路目標を決定させ、受験を想定した学習に取り組ませる。  | HRや面談、集会等を通じて最終学年としての意識を高めさせ、各自の進路目標の実現に向けて、勉学と部活動の両立に努めさせる。                       | 学習時間のアンケートを行い、授業時間以外の学習時間が4時間以上の生徒の割合が60%以上A、30%以上B、15%以上C、15%未満ならDとする。   | B  | 6月末のアンケートを集約した結果、59.6%の生徒が4時間以上学習していた。 |       |                      |
| 事務              | 生活指導  | 基本的な生活習慣をしっかりと確立させ、自己管理についての意識を高め、自己を律する力を身につけさせる。                | 8時20分着席の持つ意味を考えさせ、安易に遅刻をさせない環境作りをする。   | 不注意による遅刻総数が80回以下はA、81～100回はB、101～120回はC、121回以上ならDとする。                              | —   | 年間を通しての評価なので、年度末に評価を行う予定である。なお、現在の不注意遅刻者数は47名。   |  |       |                      |
|                 | 進路指導  | 自己の進路実現に向けて、諦めず、妥協せず、粘り強く努力させる。                                   | 生徒各自の進路実現に向けて多様な情報を提供するとともに、学習環境を整え、それに基づいて最大限の努力をさせる。   | センター試験の受験前にアンケートを行い、4月時点での志望校を堅持している生徒が60%以上A、50%以上B、40%以上C、40%未満ならDとする。           | —   | センター試験前のアンケート結果をみて評価を行う予定である。  |  |       |                      |
|                 | 事務  | 光熱水費(電気・水道・ガス)の使用量を削減する。  | 生徒・教職員の健康管理を優先しながらも、電気器具、水道等の不要な使用を監視し、環境への配慮の観点からも光熱水費の使用量の削減に取り組む。   | 使用量合計が前年度に比べ4%以上削減でA、0～4%の削減でB、0～4%の増加でC、4%以上増加した場合はDとする。(ただし、青友会設置の空調設備の電気使用量は除く) | A   | 4～8月の使用量については、合計で前年度比14.4%減となった。今後も生徒・教職員の健康管理を優先し、使用の監視を継続する。<br>使用量前年度比<br>電気 10.1%減<br>水道 20.9%減<br>ガス 57.7%減 |  |       |                      |